

② 伏線と回収

ミステリーは、建築設計図。結末がわかっている、傑作！？

先読みが出来ない、とは決して誉め言葉ではない。
結末がわかっている、傑作ミステリーは書き得る。
もちろん、どんな傑作物語も――

★ 伏線とは、何か？ どんなものが見えるか？

動作・行動・くせ
環境（季節、時間、場所など）
言葉＝セリフ
音楽、歌
聴覚、臭覚、触覚、痛覚など

これらを、前もって、感情をプラスして置いておく。
「何故、あんなことを？」「変だな？」「いやだな」「気持ちいいな」「嫌いだな」
などなど。

これが、『伏線』『伏線を張る』ということ。
ひとつずつ、というより、いくつか組み合わせた方が、より効果的。

★ これらの謎や疑問の答えを見せたり、その理由や結果を示したりすること。

これが、『回収』『伏線を回収する』ということ。

★ これによって、感情が変わる、人間が変わる、それこそがドラマであり、ミステリーに限らず、物語の醍醐味である。

★ という考え方を元に、以下の課題を。

- ① 猫が家出した。
- ②
- ③ 猫が帰って来た。
- ④
- ⑤ 私は結婚した。

②と④を、それぞれ埋めて、
400字以内の短い小説を書いて提出を。